

令和 7 年度全国学力学習状況調査の結果

京都市立柊野小学校

4月17日に、本校6年生94名を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語・算数・理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学校生活について問う調査も実施されています。本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果(国語・算数・理科)

国語・理科は全国平均を上回る正答率でした。算数は、全国平均と同じ正答率でした。基礎学力がきちんと定着していることを裏付ける結果となりました。



国語科より

全体的に良くできています。資料や図などの複数資料の要点を把握し、適切な答えを選ぶ問題で、全国平均より6ポイントも高い正答率が見られました。漢字の使い方など、基本的な言語知識についても高い正答率が見られました。資料を正確に読み取り、それを根拠にして判断する力や、言語について理解する力が育っていることが分かります。

複数の資料をまとめて要点を整理したり、「なぜそう考えたのか」を書いたりする力を伸ばすため、日頃から、文章を書く時間を大切にしていきたいと考えます。

算数科より

全体的にできています。特に、「数と計算」「変化と関係」の領域において、正答率が高い傾向が見られました。分数の計算やグラフや表を読み取る力が定着していることが伺えます。

一方で、数直線の1の目盛りに着目し、「分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるか」など、分数の意味について数や言葉を用いて記述する問題に課題が見られました。日頃から、公式や計算の仕方を理解するだけでなく、「どうしてそうなるのか」を言語化する経験を大切にしていきたいと考えます。

理科より

全体的によくできています。特に、地球や自然に関する問題において、全国平均より高い正答率が見られました。実験結果から予想や理由を考える力や、条件制御や変数に着目して説明をする力も育っていることが伺えます。

一方で、金属など物質の性質の基本知識の習得や、新たな問題の発見、探究的思考の言語化が難しいようです。今後、基本知識を確実に習得するだけでなく、実験で気付いたことから、次の問いを考える場面を増やし、探究する力を伸ばしていきたいと考えます。

児童質問調査からみられた傾向

「楽しい学校生活 × 幸せな気持ち」「ICTで広がる学びと協働」「自分を認め、仲間と考えを深める」

「学校に行くのは楽しい」「普段の生活で幸せな気持ちになることが多い」と答えた児童が全国平均を上回り、学校生活の楽しさや幸福感が高いことが分かりました。また、「自分にはよいところがある」と答えた児童が多く、仲間との話し合いを通じて考えを深める素地が育っており、自己肯定感の土台が築けていると考えられます。タブレットを使った学習では、「楽しみながら学べる」「友達と協力して学べる」と感じている児童が多く、ICT を使って協働的な学びができていることが伺えました。これらの結果から、本校では楽しい学校生活と協働的な学びの文化が定着していることが分かりました。

一方で、「自分で学び方を工夫する」「自分たちで目標に決めたことを取り組む」など、主体的な取組をするための自己調整力や、探究的学びを設計する力について課題があることが伺えました。引き続き、問いのある授業を実施していくとともに、学習や特別活動における PDCA サイクルを習慣化することで自己目標を設定したり、主体的に行動にうつしたりできる子の育成をしていきたいと考えています。

全体を通して…

本校では、「ともに学び ともに育つ」という学校教育目標のもと、「当たり前のことを当たり前、背伸び、感謝」をキーワードとして、「じぶんから学ぶ子」「じぶんもみんなも大切にする子」「じょうぶな心と体をもつ子」の育成を目指しています。今年度の重点取組としてたてわり活動の充実を挙げ、『人間関係形成力』の育成を図っています。学校行事や学級活動、児童会活動などにおいて、子どもたち自身が主体的に参画し、子どもが紡ぐ学校文化となるように仕掛けることで、自己有用感や自己肯定感を高めていきたいと考えています。また、子どもの自発性を生かし、異年齢集団での活動や学びを通して、他者を思いやる心や、協働する力を培ってほしいと願っています。

今回の調査結果から、子どもたちの教科学力は全国平均を上回り、自己有用感・生活習慣については全国平均並みであることが分かりました。学び方の工夫、主体的な取組に課題が見られることから、日々の教育活動において、学びの必要性を感じられる授業や、自分から進んで取り組みたいような問いや課題設定を心掛け、教育活動を進めてまいります。



保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の結果を見ると、学力の定着だけでなく、子どもたちの心が豊かに育っていることを伺うことができ、ご家庭での積極的な関わりや指導・支援の成果が表れていると感じます。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境作りにご協力をお願いいたします。